

令和2年度 第1回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和2年8月6日(木)
開会 午後1時00分 閉会 午後2時10分
- 2 会 場 小松市役所3階3B応接室
- 3 出席者 小松市長 和田 慎司(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 石黒 和彦
委 員 吉原 慎吾
委 員 北村 嘉章
委 員 中惣 恭子
委 員 勝木 克子
- オブザーバー
芦城小学校 校長 多保田 好浩
稚松小学校 校長 肩 恭子
- (事務局関係)
- | | |
|--------------------|--------|
| 総合政策長 | 高田 哲正 |
| 総合政策部 国際&経営政策課長 | 藤井 勝司 |
| 総合政策部 国際&経営政策課主査 | 井出 称子 |
| 総合政策部 国際&経営政策課主査 | 中村 宜嗣 |
| 教育委員会事務局 教育次長 | 吉田 和広 |
| 教育委員会事務局 シニアマネージャー | 道端 祐一郎 |
| 教育委員会事務局 未来の教育課長 | 表 久美子 |
| 教育委員会事務局 教育庶務課長 | 東谷 勝美 |
| 教育委員会事務局 教育庶務課専門官 | 唐木 和也 |
| 教育委員会事務局 学校教育課長 | 廣田 恵子 |
| 教育委員会事務局 青少年育成課長 | 松野 真弓 |
- 4 討議事項 ・with コロナ時代の教育のあり方について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・新型コロナウイルスの感染が大きな都市を中心に増えている。学校関係の皆さまには、児童生徒一人ひとりの健康管理や各家庭との調和を考えていただいている。小松市へも、いずれこの波がやってくることを想定し、様々な面で考えておかなければいけない。

- ・スペイン風邪の発生した約 100 年前に比べ、医療技術や情報伝達が大きく進んだが、マスクや手洗い、人混みを避けるなどといった対策は変わっていないと感じている。医療技術に頼りすぎず、一人ひとりがしっかり対策しなければいけない。小中学生たちには、こうした経験を通じて、よりたくましくなってほしい。
- ・現代の人たちにとっては初めてのことであり、持てる知恵を各地域や学校へどう発揮していけるかに尽きると考えている。今日のご討議、よろしく申し上げます。

○討議事項

- ・with コロナ時代の教育のあり方について

〈議長〉

- ・議題「with コロナ時代の教育のあり方について」説明をお願いします。

〈廣田学校教育課長（パワーポイント資料に基づき説明）〉

【休校中の学校】

- ・休校中のサポートとして、児童生徒が自宅で一人になることがないように 8 時 15 分から 14 時までの間、学校で授業を行ってきた。中学校では、質問教室を行い、3 年生には特に入試の対策を実施。また学習サポートとして、課題の受け渡し、メールや電話での励ましなどを行った。家庭に対しては、メールや電話で学校からの情報提供や学習サポート、不登校児童生徒への登校支援・相談を行ってきた。

【学校再開後】

- ・学校再開後の欠席の状況を調査した結果によれば、小学校では月曜日に、中学校では週末に若干欠席が多く見られたが、現在は、このような傾向は見られない。
- ・児童生徒の心の問題に対しては、再会を喜ぶ・ねぎらう、分からないことへの不安と恐れを共有、差別や偏見をなくす、感染防止の校内ルールの 4 点について指導。
- ・再開後の学校では密を避けるため、児童たちの机は離し、廊下での給食の配膳、各家庭で検温してからの登校などを行っている。ソーシャルディスタンスとマスク着用、この夏については熱中症の意識づけの掲示を行っている。
- ・手洗い場では、蛇口に触れることなく手を洗うことができるよう自動洗浄の蛇口を取り付けており、足元にシールを貼って距離をとるよう工夫しながら、手洗いを徹底している。教室は児童生徒が下校した後に担任が机の消毒を行っており、市内すべての学校で各教室に光触媒のウイルス除去の機器を設置している。

【今後の展開】

- ・ICTを活用した授業を進めていくため、モデル校で実践を行い、市内の学校へ普及していく。また、行事が少なくなっている中、児童生徒が自分たちでやりたい行事を考え、その実現に向けて学校で努力している。

【休校中の体調や心の状態】

- ・児童生徒や先生たちのメンタル相談として、相談員を今年から配置している。こどもたちからは、自分の体調を心配するようになった、手伝いや家族との時間が増えた、学校や友達の大切さに気付いたといった意見があった。
- ・また、自分で勉強の時間を管理するのが難しいということ気づいた、外出できず精神

的に疲れた、コミュニケーションが減ったといった意見もあった。特に、1年生は中学生も小学生も初めての学校で、すぐに休校になったため友達とうまく接することができるか心配という意見もあった。スマホを長時間使った、ゲームをやりすぎたなど、ネットの問題もかなり多くの意見があった。

- ・新たにやってみたこととして、家の手伝いや料理・お菓子作り、部活動ができないため自主練やランニングをした、本を読んだ、部屋の掃除ができたなど意見があった。

<多保田校長（オブザーバー）>

- ・芦城小学校は廊下がオープンスペースとなっており、密を避けるため人数の多い学級については、廊下も活用し、黒板が見えて先生の声の届く位置に机を配置して距離をとっている。教員も児童たちも感染予防を意識して、学校生活を送っている。
- ・文科省のガイドラインにあるとおり、給食では、準備中はマスクを着用し、対面しないように静かに食べるよう指導している。一人ひとり食べる量が異なるため、教員が量を変えながら配膳するなど、対応している。
- ・運動会が中止となるなど、我慢しなければいけないことがあるが、本校では行事の代わりに自分たちが楽しめるもの、全校で取り組めるものなど、どのようなことができるか、6年生の教材を利用して一人ひとりがプランを立てて話し合いをし、校長へ提案にくるという取り組みを行っている。自主的に考える行事の方が、価値があるのではないかと考えている。

<肩校長（オブザーバー）>

- ・稚松小学校においても、大きめ教室を活用して、距離をとった配置で授業を行っているが、6年生は1組と2組で教室の階が異なり、離れてしまった点が反省としてある。2学期は教室を隣同士として、6年生が団結していけるようにしていくことが、教育効果も高いと考えており、見直しを行っている。
- ・長休みの時間や給食の前後の時間を利用して、手洗いタイムを時間割の中に位置づけている。この時間は音楽を流すなど工夫をして、手洗いを意識づけしてきた。
- ・全校生徒が集まる集会については、1・3・5年生と2・4・6年生の2つに分けたり、放送を利用したりして行っている。行事については、全校で行っていた「1年生を迎える会」は1年生と6年生だけの会としたが、6年生がやり方を考えて、校歌を歌ったり、簡単なゲームで触れ合う機会をつくったりと自分たちで計画して行った。

<議長>

- ・様々な工夫をされており、その中に子どもたちのアイデアが入っていることがうれしく思う。委員の皆さんからもご質問・ご意見をお願いしたい。

<勝木委員>

- ・児童たちが様々な取り組みを考えてくれているのが頼もしく、よい取り組みだと感じた。これからも考えを出しあって続けてほしい。
- ・給食や検温など、教員の負担が大きくなっているという印象を受けたが、今までの仕

事に加わってくるものに対して、先生方はどのようにとらえているのか。

<多保田校長（オブザーバー）>

- ・朝の検温を行うため、教員の出勤時間が早くなり、健康観察や放課後の消毒作業など、やらなければいけないことが増えている。本校では、児童たちの登校時間を遅らせる対応や、市の配置したスタッフの協力により消毒作業なども負担が軽減されている。

<中惣委員>

- ・学校での感染症対策の様子がよく分かった。下校時の感染予防についても、十分指導していただきたい。

<北村委員>

- ・各学校が様々なアイデアの取組を行っている。校長会などでアイデアを出し合って共有してほしい。児童生徒たちが主体的に学ぶ大きなチャンスとなる。
- ・トイレの感染症対策はどのように行っているのか。また、集団登校など、登校時についてはどのように指導しているのか。

<多保田校長（オブザーバー）>

- ・トイレについては下校後に職員が消毒を行っている。芦城小学校は集団登校ではないが、熱中症対策として暑いと感じた場合はマスクを外してよいが、密にならないように注意している。

<肩校長（オブザーバー）>

- ・稚松小学校も集団登校ではないが、登下校時の熱中症対策として、校内放送や家庭へのお便りの中で、暑いと感じた場合や一人で登下校している場合はマスクを外してもよいことや、おしゃべりをしすぎないことを指導しており、家庭での声掛けもお願いしている。

<吉原委員>

- ・学校ではきめ細かい対応していただいている。教員の方々の負担軽減を考えていかなないといけないが、プライベートを含めて、教員の方に対してはどのように指導しているのか。

<多保田校長>

- ・教員は毎朝の検温を行っている。県外へ出かける場合には日程や行き先、交通手段などについて報告するようにしている。家族以外の会食などは控えるようにしている。

<議長>

- ・今後、必要な資機材や家庭での対応も含めて、どう取り組んでいくか、感染が広がることや対応が長期に渡ることを想定しておく必要がある。

<石黒教育長>

- ・この非常時の中で、現場の教職員の方々には感謝している。児童生徒たちはこの1～2年間を忘れないだろうと思う。先行きが見えない状況であるが、教育委員会と市で十分に話し合いを行い、学校現場が困らないよう、十分な教育ができるよう尽力していきたい。
- ・英語には、Less is moreという言葉がある。授業や行事など、従来の時間数が取れない中でも、児童生徒たちに課題を持たせてモチベーションを維持し、深い学びをさせていくことが必要だと思う。今後、オンライン教育が必要になってくるが、リアルな対面式の教育をそのままオンライン化しても、これはオンライン教育ではないと考えている。モデルづくりなど、オンライン教育のあり方をできるだけ早くつくっていきたい。
- ・学校においても、家庭においても、児童生徒たちが課題を見つけて深めていくというような学びが自然と行われるよう指導をお願いしたい。学校のかじ取りを行う管理職の教職員については、このような時期だからこそ、学びのポイントを明確に示していただきたい。

<議長>

- ・経済環境が悪くなっているが、以前のように戻ることはなく、新しいビジネススタイルや新しい商品がでてこなければいけないと思っている。それぞれのご家庭も厳しくなる。教育だけの問題ではなく家庭や地域も含め、総合的な形でどう乗り越えていくか、知恵を出していかなければいけない。

<勝木委員>

- ・制約が多く今までどおりの生活をするのはとても難しい。オンラインの旅行ツアーがあるように、今できないことが、違った形で実現できるようになることもある。あれもできない、これもできないと考えるのではなく、児童生徒たちがアイデアを出しあったように、これならできる、あれならできるという風にできることを考え、前向きに学校運営にあたっていただきたい。

<中惣委員>

- ・家庭でお子さんたちにお花をさせるため花を持ち帰る保護者や、お花を始めたお子さんが増えており、各家庭でも工夫をして困難にまけないように頑張っている。悲観的にならないよう激励していただきたい。

<北村委員>

- ・児童生徒たちにはアイデアを自ら考え、主体的に実践していく力を身につけてほしい。教職員の方たちもこれまでと同じではなく、いろんな方法を考えてほしい。各学校の素晴らしいアイデアやできることを情報発信することで、新たな気づきにつながっていく。

<吉原委員>

- ・企業は規模の大小にかかわらず状況に応じてビジネスモデルを変えていくことはできるが、行政は企業のようにできない部分がある。当面は現状の枠組みの中で、発生する状況に対処していかなければならない。教職員の皆さんの知恵を集めて、こどもたちのために最善を尽くしてほしい。

<議長>

- ・今生きている人類にとっては初めてのパンデミックであり、長期化することを想定しなければならないが、幼児から高校生まで、彼らには楽しい未来を夢見てほしい。教育委員の方々や教育委員会と様々なことに取り組んでいきたい。

以上

○閉 会